

第1回 ミドルリーダー研修

令和3年7月16日 学園南こども園

**講演** 「幼小接続の意義と課題」

～学びの芽生えを可視化してアプローチカリキュラムにつなげる～

講師 帝塚山大学 教授 松浦 真理

研修のテーマ：連携・接続

1. 私たちの幼保小連携・接続の経験を振り返る
2. 連携・接続の考え方・ポイント・背景の確認
3. 接続期カリキュラム（アプローチカリキュラム）作成に向けて



**【グループワーク 1】**

話し合いの内容：今までに幼保小連携・接続について具体的にどのようなことをしたか、またそれについて感じたこと、意識していること、現在行っていることで保育で変化したことがあるかを話し合う

各グループより：・行事の時の案内



- ・年3回交流を持つようにしている（単発にならない様に繋げる事を意識している）
- ・就学に向けて、困らない様に懇談などを利用して保護者への発信も心掛けている

○今までは「連携」どまりであるが、これから考えていく事は「接続」

連携とは→異なる学校段階の教職員や子ども、保護者が相互の交流を通して互いを理解・協力し合っって新しい学校段階に子どもが入っていく事を手助けすること

接続とは→異なる学校段階の教育課程（カリキュラム）をつなげてスムーズに子どもが新しい学校段階に入っていけるようにすること



なぜ接続が大事であるのか

○3つの背景

- ① “小1プロブレム”が解消されない事
- ② 幼児期には認知能力よりも非認知的能力を身に付けることが将来の学びにつながる
- ③ ICT化、グローバル化の潮流が急速に進む社会において、将来の大人である子どもたちが身に付けるべき力が変化したこと



そのためにこれからの教職員に求められるのは以下の資質能力

- ① 子どもの発達や学びの現状などを正しく理解する力
- ② 児童期の教育を見通す力
- ③ 今の教育・保育活動を構成・実践する力
- ④ 他の教職員や保護者と関係を構築する力

## 【グループワーク 2】

話し合いの内容： 写真をもとに保育の様子を振り返り  
資質・能力の3つの柱がどう育っているか乳児・幼児に  
ついて考え合う。



### 資質能力の3つの柱

#### 1つ目の柱 知識及び技能の基礎

豊かな経験を通して、五感を働かせて、分かる、分かろうとする、気づく・気づこう  
とする、出来る・出来るようになろうとする。

→ “豊かな経験を通じて” という事を意識して

保育者が「ただ情報を与えて知らせ」子どもが「知る」と言う状況は好ましく  
ない。

子どもたちが間違えてもいいので、やろう、考えようとする力、気持ち、意欲を  
大切に育む。

#### 2つ目の柱 思考力・判断力・表現力等の基礎

経験できたことを糧に、そのことを次の活動や行動で活かせる、活かそうとする

→ 見た目では分かりにくいことも多いが、子どもの性格や日々の言動にアンテナを  
はりながら評価、判断していく事が大切



#### 3つ目の柱 学びに向かう力、人間性等

心情・意欲・態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

最後の文面の“～もうとする”上に向かう気持ちが大事

それと同時に子ども自身の思い(様々な感情)が出せるように保育者は、いつも受け  
身で子ども達の事を丸ごと受け止め、子どもが「自分は自分のままでいいんだ」自分  
が大好きだと感じられる環境、見守りが大切

### まとめ

- ・3つの柱を意識するだけで小学校以降との「つながり」を意識できることになるというシ  
ンプルな考えで日々の保育(記録)を見直すと、気持ちがらくになるのではないだろうか。
- ・自分が関わっている子どもは「社会の一員であり同時に、将来の社会人になる」という  
意識を頭の片隅に入れながら日々の保育をする。

### 【参加者の声・気づき】

- ・幼児期だけではなく、乳児期のころから長いスパンで連携・接続が大切だという事  
を学んだ。そこに意識を向けて保育を心掛けたい。
- ・グループワークを行う事で、自分の視点だけではなく様々な意見・情報交換をする  
ことが出来て視野が広がった。

幼児教育アドバイザー 横山 知江